

1. 街なかエリア 辛島公園および中心市街地一帯

1. 辛島公園エリア

花のトンネル

サクラマチクマモト前(シンボルプロムナード)にて全長約36mの花のトンネルを設置。約24,000人の方々にご来場いただいた。



★市民ボランティアの参加★



設置にあたっては、約50名の市民ボランティアの方々も参加し、花の飾りつけを行った。

辛島公園彩空間

熊本県産の花苗と竹を使用したフラワーアートを設置。夜間も楽しめるように竹あかりのライトアップを行い、多くの方に楽しんでいただいた。



花の小道

緑のマイスター企画として、ハンギングバスケットや寄せ植えを辛島公園の手すり周辺に設置。設置にあたって寄せ植えのワークショップも開催した。

Out Of Kidzania

キッズニアの熊本出展に合わせ、お花に関する体験ブースを出展。こどもたちが花の生産について学び、フラワードールを制作した。



高校生フラワーコンテスト

熊本県内高校生を対象としたフラワーアレンジメント・ガーデニング寄せ植え・花生けのコンテストを熊本城ホールにて開催。



2. オープニングイベント

花畑広場にて、熊本県森林フェスティバルとの合同開催。花のトンネルの開通式をはじめ、必由館高校と熊本の彼氏「杉本琢弥」氏とのコラボステージなど、花博の開幕にふさわしいイベントを展開。



ブース出展

オープニングイベントの会場にて、竹細工作りのワークショップをはじめ、お花屋さんの販売などのブースを設置



3. 新市街エリア

小国杉オブジェ

商店街企画として、大阪万博に出展した「小国杉オブジェ」を使用し、商店街の商品券が当たる抽選会を実施した。



トラック協会のオブジェ

熊本県トラック協会により、トラックをモチーフにした花のオブジェを新市街の入口に設置



県内市町村物産展

県内市町村と連携し花や緑に関する物販やワークショップを実施。

4. 中心市街地等タイアップ

【COCOSA】
店内装飾・ミニツリーワークショップ



【HAB@・OMO5熊本 by 星野リゾート】
館内装飾・FLOWER PHOTO SNAP
エコバック作成、フラワーキャンドル作成等



1. 街なかエリア 辛島公園および中心市街地一帯

5. 下通エリア

フラワーデザインコンテスト

市民参加型のアレンジメントコンテストを実施。47の作品が出品され、個性豊かな作品を展示。作品とあわせて「シチュエーションカード」を記入してもらうことで、作品に込めた想いとともにより楽しむことができる仕組み。アーケード通行者の方に投票してもらい、人気の3作品をエンディングイベントにて表彰した。



グリーンマーケット

下通3番街の商店街企画として、観葉植物をメインとしたマルシェを実施。コーヒーショップも出店し、ゆっくりお買い物を楽しめるイベントとなった。



フラワーアレンジメントワークショップ

街なかのアーケードにて、生花のアレンジメント制作が体験できるワークショップを実施。



フラワーマルシェ

熊本の町の花屋や教室で活躍しているフローリストや、店舗を持たない花屋さん達があつまる“花乃市庭”。切り花・ドライフラワー、花苗・多肉植物もこれら全てが揃う下通マルシェを実施。



肥後のつりてまり



生花装飾



熊本県産花き品評会



6. 上通エリア

上通フラワーガーデン

～花と香りに癒されるひととき～

商店街企画として、上通アーケード内に花のパーゴラを設置。商店街のみなさんを中心にボランティアによって装飾を作り上げ、花と香りの心地良い空間を演出した。



おとなりマルシェ

他部署連携で、既存の障がい関係のマルシェイベントに花やみどりに関するワークショップ等を実施。街なかのイベントと連携し抽選会も実施した。



フラワーワークショップ

商店街企画として商店街のみなさんが講師となってフラワーアレンジメントのワークショップを実施した。



肥後菊の展示

熊本の歴史と伝統の花、肥後六花の一つである「肥後菊」を上通アーケードにて展示。



7. 熊本城エリア

花博限定Ver.御城印の販売

熊本城で常時販売している「御城印」の花博ver.を限定販売!

花博開催期間限定で、肥後六花をあしらった華やかなデザインのものを作成し販売した。



8. エンディングイベント



期間内に実施した、フラワーデザイン・ミニガーデンコンテスト受賞者の表彰式を行い、プレイベント(寄せ植え・竹あかり制作)にも参加したEXILE ネスミス氏と市長のトークセッションを行った。市民ステージとして済々黷のバンド演奏などのステージパフォーマンスも実施した。

2. 水辺エリア 水前寺江津湖公園一帯(動植物園含む)

1. 水前寺エリア

ジェーンズ邸フラワーダイニング

県内最古の洋館である「熊本洋学校ジェーンズ邸」を会場に、花を身近に感じられる空間を整備。座席周辺にたくさんの花を設置し、参加者が花と共に食事を味わえる場を提供した。



水前寺WhiteXmas(文化財課、観光政策課との共催)

ジェーンズ邸では館内外をクリスマス仕様に装飾するとともに、ライトアップを実施し、歴史的景観と光の演出が調和する魅力的な空間を形成した。白いポインセチアと白基調のフラワーゲートを設け、多様な催しとあわせて来場者が楽しめる場を整備した。



御庭印の販売(くまもと花博Ver.)

水前寺成趣園とのコラボ企画。



2. 上江津エリア

上江津及び下江津にて民間事業者・団体主催のイベントとのタイアップを実施した。

江津湖living



上江津探鳥会



3. 下江津エリア

みなも祭り



水辺エリア
来場者: 15,661人



4. 動植物園エリア

ミニガーデンコンテスト

動植物園では、市民協働型イベントのミニガーデンコンテストを開催し、企業や市民が制作した20の花壇が並んだ。



動植物園フラワーダイニング

一人一花運動及び動植物園の菜の花さくら祭りとの共催で、フラワーダイニングを開催し、花と食を楽しむ場を提供した。



ナノハナ種まき体験

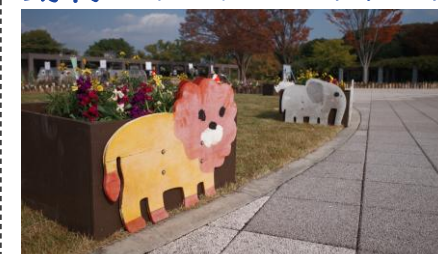
動植物園で行ったナノハナ種まき体験会には多くの市民が参加し、種まきを通して子どもたちの緑化への関心を深める機会となった。



かぐや姫プロジェクト



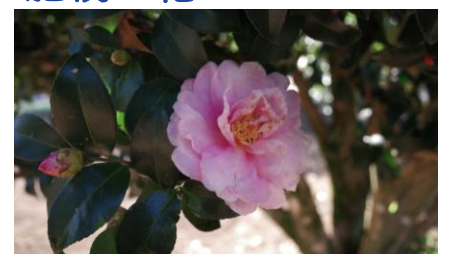
動物プランターストリート



たねダンゴづくりWS



肥後六花のPR



3. まち山エリア 託麻三山一帯

1. 小山中周辺エリア

アートレイルin託麻三山

地域の方々が整備を行っている小山中で、間伐された木や竹を使用してCHIKAKENプロデュースによる、幻想的な空間を演出し、訪れた方々に自然と光が織りなす特別な体験を提供した。



竹山アスレチック

里山の竹をそのまま活用した空中アスレチックや竹のブランコ、ジャングルジム等を設置した。子どもたちにとって特に人気の場となった。



キッチンカー大集合

会場付近にはキッチンカーが出店しイベントを一緒に盛り上げた。



Machi-YAMA Area



まち山エリア
来場者：13,807人

たくまの秋 史跡巡り

託麻地域に点在する史跡の魅力を紹介する取り組みとして、たくま八十八ヶ所巡りの史跡と札所を巡るウォーキングイベントを開催した。参加者は、地域の歴史や文化に触れる機会となった。



放置竹林の竹を活用“かぐや姫プロジェクト”

放置竹林の間伐した竹を活用して、竹のプランターを制作。それに小・中学校とこども園の皆さまが花博用に花を植え付けてくれ、水辺エリアの動植物園とまち山エリア（アートレイルin託麻三山 入口）に装飾を実施した。竹のプランターは、熊本県森林組合連合会と、放置竹林対策の活動している森林の活動団体の皆さまがボランティアで制作してくれたもの。沢山の方々が関わり作り上げた、“かぐや姫プロジェクト”は花博会場をより華やかに彩った。



神園山・小山中 夕暮れハイキングクエスト

神園山・小山中で夕暮れ時に山頂を目指してハイキングをスタート。参加者はクイズを解きながら楽しく山頂まで登りました。



2. 神園山周辺エリア

学んで遊べる木育広場

県産の木材を車内に使用した木育バスや木育遊具を設置。小学校高学年まで楽しむことのできる空間となった。また、木工教室として1日50個限定でお箸やカップなどの制作ができるワークショップ開催した。木と触れ合うイベントとなった。



自然観察会・生き物探し

神園山周辺に住む生き物観察イベントを実施。参加者は神園山周辺の自然や魅力に触れ合う機会となった。



収穫試食体験

神園山荘駐車場で託麻北校区よりいただいた芋を使用して芋ほり体験を実施した。掘ったサツマイモはそのままふかして試食した。



神園山ロープクライミング

自然の中で普段味わう事の出来ない体験が子どもたちに大人気のアクティビティとなった。



3. 戸島山周辺エリア

里山体験イベント

地元の里山整備を行う団体の皆さまや熊本市緑のマイスター「竹むすび班」にご協力いただき、実際の竹の伐採体験や、伐採した竹を使用したワークショップを実施した。お持ち帰り用として「かぐや姫」（竹の植木鉢）や一輪挿し用竹筒の作成を行った。また、伐採体験で出た竹を使って竹飯盒づくりにも挑戦し、里山整備団体提供のカレーとともに試食を実施。森林整備の重要性を学びながら、竹を活用する楽しさややりがいを体感できる貴重な機会となった。



小山上天満宮「こども相撲大会」こども相撲大会とタイアップを行い、参加者には花の種、各競技優勝、入賞者には花苗の寄せ植えセットを配布した。



4. 広報関係

広報の取組み一覧

インフルエンサーの活用



TikTokで約117万人。SNSの総フォロワーは190万人を持つ、熊本市出身の若手インフルエンサーの杉本琢也さんとコラボし、広報活動を展開。10代や20代などをターゲットとしたイベントInstagramでの広報も積極的に実施した。

SNS掲載 (Instagram、LINE、X等)



SNSを活用し、写真や動画とともにイベントの情報と魅力を発信。若年層を中心に幅広い層へ迅速に周知し、イベントの関心向上と来場促進につながった。

くまもと花博専用HP



メインビジュアルに合わせて熊本市のHPにはない統一感を演出。花博コンセプトページをはじめ、それぞれのイベント詳細が分かりやすいページ構成に心掛け、多くの方にHPを閲覧いただいた。

ポスター・チラシ・広報紙掲載



くまもと花博の開催にあたり、イベント日程に合わせたチラシ・広報誌の作成を行い、幅広い層への情報発信を図った。特に、紙媒体での情報収集が多い高齢層や熊本市民への周知を重視し、市政だよりへの掲載を通じて、イベントの魅力や開催目的を分かりやすく紹介した。これらの広報活動により、市内外への認知度向上と参加促進につながった。

テレビ・CM・ラジオ



テレビ・ラジオでイベント内容を効果的に発信し、多様な世代へ周知を図ることで来場促進と認知向上につながる広報を実施した。

協賛企業



くまもと花博の開催にあたり、多くの企業様からご協賛をいただくことができた。広報活動を通じてイベントの目的や地域への波及効果を丁寧に伝えたことで、企業の皆様に本事業の趣旨をご理解いただき、積極的なご支援につながったものである。

5. ボランティア

ボランティアの活動

ボランティアに延べ420人

今年のくまもと花博では、市民協働をテーマに掲げ、延べ420名のボランティアの皆さまにご参加いただいた。花博の象徴となった「花のトンネル」の制作だけでなく、会場装飾や体験プログラムの準備、各種イベントの運営補助など、多岐にわたる場面で力を発揮していただいた。多くの市民の皆さまが主体的に関わったことで、花と緑を通じた協働の取組が一層広がった。



6. 来場者・アンケート結果

○来場者数19万人

【街なかエリア】		人
オープニングイベント	33,000	
エンディングイベント	12,000	
花のトンネル	23,879	
その他	90,447	
街なかエリア合計	159,326	

【水辺エリア】		人
ジェーンズ邸フラワーダイニング	2,000	
みなも祭り	2,000	
探鳥会	49	
ナノハナ種まき	83	
ガーデンコンテスト（動植物園）	11,529	
水辺エリア合計	15,661	

【まち山エリア】		人
アートトレイルin託麻三山	12,507	
その他	1,300	
まち山エリア合計	13,807	

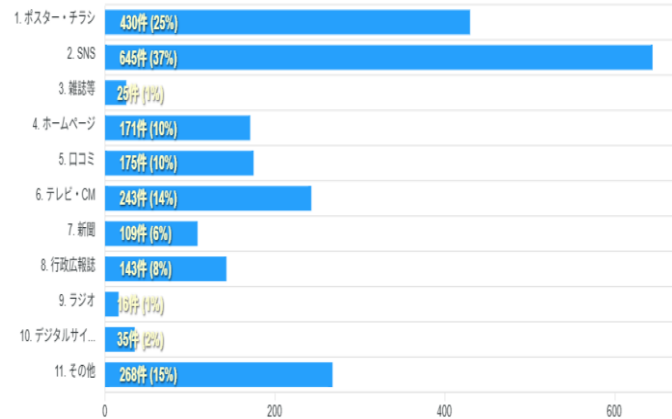
総来場者数 188,794人

目標来場者数10万人を大きく上回り、多くの方々に来場いただいた

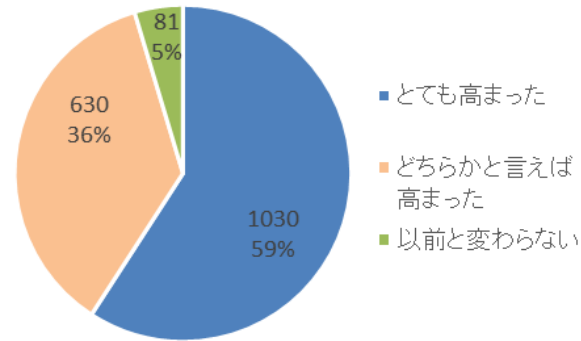
○親子での来場者が増加

来場者は昨年同様、若年層から高齢層まで幅広く、特に30代・40代が約半数を占め、子育て世代の来場が目立つ結果となった。アンケートでは「子どもも楽しめた」との声が多く、親子での体験がステークホルダー育成にも寄与したと考えられる。また、95%が花や緑への関心が高まったと回答し、この高まりを今後の取組に繋げることが重要と考える。認知経路ではSNSが最多（645件）、次いでポスター・チラシ（430件）、テレビ・CM（243件）と続き、オンラインとオフラインを組み合わせた広報戦略の有効性が示された。

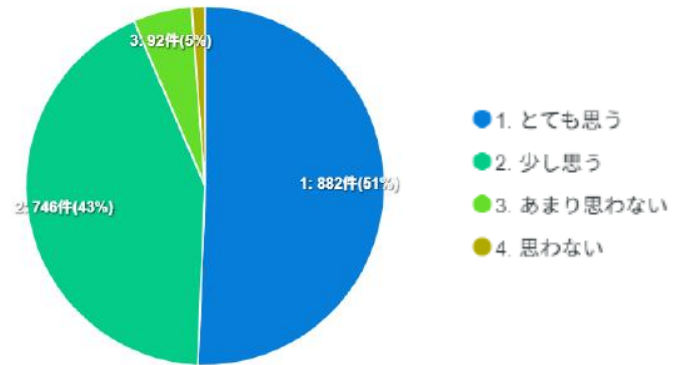
くまもと花博を何で知りましたか？



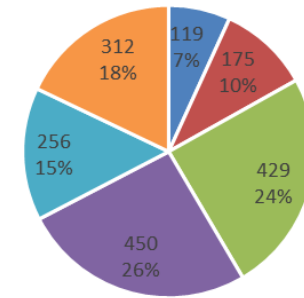
花博来場後、花みどりへの関心は高まりましたか



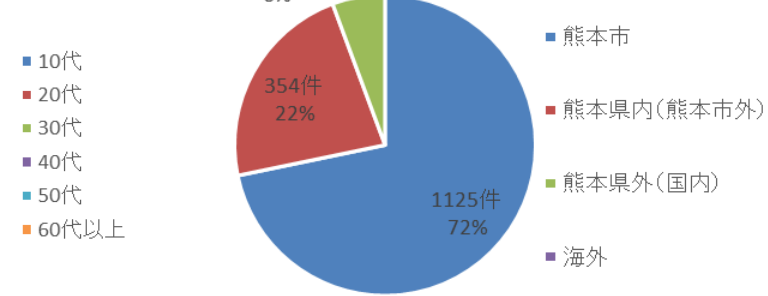
花博をきっかけに、花緑に触れる活動をしてみたいと思いますか



来場者数内訳年齢



居住地



7. アフターイベント

ロスフラワーワークショップ



花のトンネルで使用した花を活用したワークショップを開催。SDGsへの取り組みを推進するほか、ロスフラワーの活用方法を提案し、新たな担い手の育成を図ることを目的とした。

ブーケ・オブ・メモリーズ

高校と中学の卒業生が感謝の気持ちを込めてミニブーケ（ハーバリウム）を作成。作成したミニブーケは卒業式でお世話になった人へのサプライズプレゼントとして、渡された。ハーバリウムは半永久的に残るため「花とみどりを日常に」の第1歩となることも目的としてコラボを実施。



フラワーダイニング



期間中に好評だったフラワーダイニングをアフターイベントで、今回は動植物園の桜・ナノハナ祭りとコラボ。会場にはたくさんの花であふれていた。



8. くまもと花博の成果

市民協働による『くまもと花博』

花のトンネル



サクラマチクマモト前の街なか広場(シンボルプロムナード)には、市民ボランティアの皆さまとともに制作した「花のトンネル」が登場。昼間は色とりどりの花々が織りなす華やかなトンネルを楽しめ、夜間にはライトアップによる幻想的な雰囲気になり、訪れた方々を魅了した。開催期間中の入場者数は24,000人を超え、多くの皆さまに花の魅力を感じていただいた。

フラワーデザインコンテスト&ガーデンコンテスト



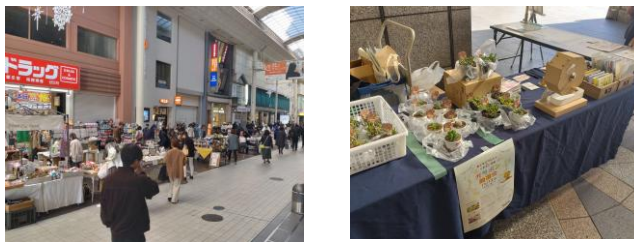
初開催となったフラワーデザインコンテストとミニガーデンコンテストは、くまもと花博の新たな魅力として多くの来場者の関心を集めた。両コンテストには個性豊かな作品が並び、一般投票による審査には多くの票が寄せられた。上位入賞者への表彰式では賞状や記念品が贈られ、会場は温かな拍手と笑顔に包まれた。初開催ながら作品の質の高さも評価され、市民参加型イベントとして大きな盛り上がりを見せた。

里山体験



地元の里山管理団体と緑のマイスターの協力で、里山整備体験イベントを開催。参加者は整備作業や一輪挿し用竹筒づくりを体験し、終了後には竹飯盒での炊飯や炊き出しを楽しんだ。参加者からは「今後も里山整備に参加したい」という声も寄せられ、里山の魅力を広く伝える貴重な機会となった。

他課との連携



おとなりマルシェ(障がい者施設商品販売会)と連携し、来場者が支援活動に触れる機会を創出した。多様な主体との協働により、社会参加の促進につながる取組として実施するとともに、関係課との連携も円滑に進み、より効果的な運営につなげることができた。

緑のマイスターの活躍の場の増加

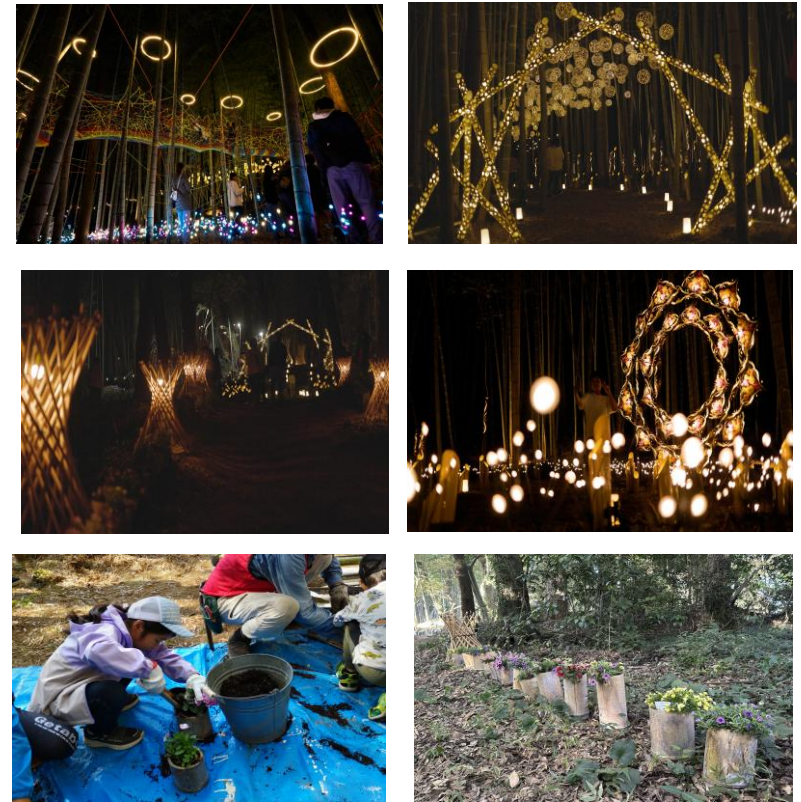


今回は初の試みとして緑のマイスターが立案から計画、実施までを行う「花博ティアップ企画」を総勢34名で、6つの企画を実施。案を出し合い、チームを作るところからスタートし、具体化→資材準備、PRポスター作成→実施。開催当日には、沢山の来場者を相手に講師役を勤め、様々な体験を提供。緑のマイスター自らが主体で企画し、盛り上げることもできた。

【実施イベント】

- ①辛島公園 花の小道づくり(ハギソグバスケット制作)
- ②花の寄せ植えWSと辛島公園装飾
- ③フォトコンテスト(全域対象)
- ④雨庭PR(街なか・動植物園)
- ⑤たねだんご作りWS(動植物園)
- ⑥里山体験イベント 竹林作業と竹の工作(戸島山)

熊本市の魅力をもっと発見 アートトレイルin託麻三山



自然とアートが融合した特別な空間を演出し、期間中は約13,000人が来場。竹林は幻想的にライトアップされ、竹を使ったアスレチックエリアも家族連れに大好評であった。また、市民協働によるワークショップで子どもたちが制作した竹灯籠を会場各所に配置し、温かな灯りが竹林の美しさをさらに引き立てた。地元の皆さまのご尽力により整備された竹林と、市民の創意が加わった竹灯籠の装飾により、その魅力を広く発信することができた。

報告第2号

くまもと花博2025 決算見込みについて

■令和7年度決算見込み

収入金額 89,293,295円

支出金額 78,103,357円

差 引 11,189,938円 (次年度繰越)

【収 入】

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算見込額 (B)	差引 (B-A)	主な内容
負担金	79,500,000	79,500,000	0	主催者負担金
協賛金	2,819,230	2,819,230	0	協賛金及び寄附金
繰越金	6,974,065	6,974,065	0	前年度繰越金
合 計	89,293,295	89,293,295	0	

※協賛金及び寄附金の内訳は別添のとおりです。

【支 出】

(単位：円)

項 目	予算額 (C)	決算見込額 (D)	差引 (D-C)	主な内容
事務局費	700,000	390,871	309,129	事務局運営経費
事業費	48,393,295	46,254,800	2,138,495	街なかエリア実施運営費
	20,200,000	12,161,704	8,038,296	水辺エリア実施運営費
	2,000,000	1,600,000	400,000	まち山エリア実施運営費
	5,000,000	2,426,202	2,573,798	会場運営費 (警備・駐車場案内スタッフ等)
	13,000,000	15,269,780	△2,269,780	観客誘致・広報宣伝費
合 計	89,293,295	78,103,357	11,189,938	

※支出内訳詳細は次項に掲載

■令和7年度 支出内訳

項目	金額 (円)
事務局費	小計 390,871 円
実行委員会総会開催経費、消耗品購入費、振込手数料等	390,871
街なかエリア	小計 46,254,800 円
花壇・花装飾関係経費	27,130,000
ワークショップ関係経費	3,300,000
中心市街地商業施設および民間タイアップイベント経費	15,824,800
水辺エリア	小計 12,161,704 円
民間タイアップイベント経費	182,930
ワークショップ関係経費	680,000
水辺エリア各種イベント運営経費	11,298,774
まち山エリア	小計 1,600,000 円
まち山エリア運営経費	1,600,000
会場運営費	小計 2,426,202 円
運営管理費用等 (街なかエリア・水辺エリア・まち山エリア)	2,426,202
観客誘致・広報宣伝関係	小計 15,269,780 円
紙面広告 (ポスターチラシ・新聞折込・フリーペーパー等)	1,355,320
テレビ CM、SNS 広告、広報動画制作等	13,914,460

支出計：78,103,357 円

※別途、まち山エリア森林環境教育事業として、熊本市より 10,500,000 円支出

協賛						
No.	振込日	金額	企業名	代表者職・氏名	郵便番号	住所
1	12月15日	330,000円	医療法人 幸会 なかの耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック	理事長 中野 幸治	862-0962	熊本県熊本市南区田迎4丁目9番41号
2	12月25日	110,000円	株式会社ヒューマン・ライフ	代表取締役 松崎 武則	861-8006	熊本県熊本市北区龍田3丁目32-18
3	12月26日	330,000円	株式会社通宝	代表取締役 塚田 一成	862-0946	熊本県熊本市東区画図町所島1100
4	12月30日	330,000円	株式会社 永野商店	代表取締役社長 永野 順也	861-8072	熊本県熊本市北区室園町10-22
5	12月30日	110,000円	株式会社 福德開発	代表取締役社長 内村 真一朗	861-5514	熊本県熊本市北区飛田4-6-60
6	1月30日	110,000円	株式会社フジバンビ	代表取締役社長 松本 順次	861-5515	熊本県熊本市北区四方寄町 1445-1

寄附						
No.	振込日	金額	企業名	代表者職・氏名	郵便番号	住所
1	3月6日	1,500,000円	アデル・カーズ株式会社	代表取締役 池永 成正	861-4101	熊本県熊本市南区近見6丁目22番70号

※熊本市負担金のうち、企業版ふるさと納税等による寄附

・鹿児島銀行 ・株式会社江良水産 ・マインドソフトウェア株式会社

一人一花運動



「一人一花運動」とは… 花を飾る、見る、育てる

市民・企業・行政一人ひとりが、花を育て、まちを育てる。
公園や歩道、職場や家庭などの花づくりを通じて、人や地域社会のつながりを深め、
心豊かな暮らしと、魅力あるまちづくりを目指す取組、
それが森の都の『一人一花運動』です。

市民・企業・団体が参加可能な制度について

以下のような制度により、市民・企業・団体等と協働でこの運動を進めてまいります。

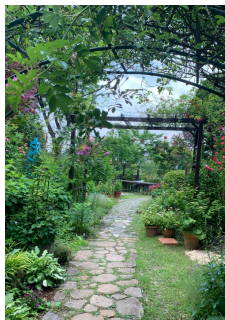


1 パートナー花壇

道路から望むことができる個人宅のお庭・プランター、企業敷地の花壇、地域で作る花壇(道路、公園、河川敷)などが対象です。
花で地域に笑顔を広げ、一体となって魅力あるまちづくりを進めています。



2 オープンガーデン



個人宅や企業のお庭・花壇を
期間限定で一般公開する取組です。
花を通じた交流を楽しみながら、
熊本のまちを彩ります。
春(3~5月)と秋(10~11月)に
開催しています。



3 緑のマイスター



市の養成講座を受講し修了すると、
熊本市認定の緑化リーダーとして認定されます。
花壇づくりや講座講師など、地域で活躍しています。



4 スポンサー花壇

協賛企業からの協賛金により管理する
街なかの花壇やプランターを企業ロゴ
を掲出した芳名版とともに設置してい
ます。協賛金は水やりなどの管理作業
に係る経費に充てています。



5 一人一花運動サポーター



一人一花運動の趣旨に賛同する個人、
事業者及び団体の皆様からの寄付受入
制度。寄付金は、花と緑のまちづくり
に活用しています。

一人一花割引制度

①~③の活動者に対して、活動で使用する花苗・園芸用品を
割引協力店で5%割引